

づかさのものども、たゞみとるやをそきと、ものもりづかさの官人ども、手ごとには、きとりすなごならず。

〔後水尾院當時年中行事八月〕朔日、けふは御たのむとて、各おもひくゝの進物をさ、ぐ返しをたぶ、略中みなせよりは御ようじの木一ゆひ、帚貳本參る。

〔玉露叢十三〕一同年寛永十六年ニ江戸大火、此時御城回祿ス、御城御普請出來シテ、御移徙ノ時、御一門及ビ諸大名衆ヨリ獻上物ノ品々、略中

一御帚 五十本

建部内匠頭略中

一御帚木 二十本

織田修理亮

〔明良洪範十七〕松平丹後守在江戸ノ時、五葉ノ松ノ鉢植ヲモトメ秘藏セリ、歸國ノ節モ吾乗物ノ内ヘ入レテ持參シ、居間ノ椽ヘ置き、朝夕ナガメテ樂メリ、然ルニ或朝坊主掃除ヲセシニ、此坊主未ダ十二三歳ナル子供ナレバ、帚ヲ持鎗ヲ遣フマテヲスル時、其松ノ枝ヲ折タリ、

〔胸算用五〕才覺のちくすだれ

手廻しの賢き小供あり、我當番の日はいふに及ばず、人の番の日も帚取々座敷掃きて、數多の小供が毎日使ひ捨てたる、反古の圓ろめたるを、一枚々々皺伸ばして、日毎に屏風屋に賣りて歸るもあり。

帚商

〔七十一番歌合上〕廿一番 右 硫黄帚賣

晝なれやよはの月ともいかにゆわうは、きの塵も曇なき哉

我戀とゆわうは、きのいつとなく離れぬ中とおもはましかば

〔守貞漫稿六〕生業〕帚賣

棕櫚帚賣ナリ、三都トモニ古帚ト新帚ト易ル、古キ方ヨリ錢ヲソユル、古帚ハ解テ棕櫚繩及ビタ